



4年2組  
越川このみさん

※なかなか乗れなかつた竹馬に初めて乗れた時、とてもうれしかった。



『竹馬に乗れたよ』



1年1組  
市原弘樹君

※ぼくがテレビに出て、サッカーをやっているところ。



『ぼくがテレビにでたら』

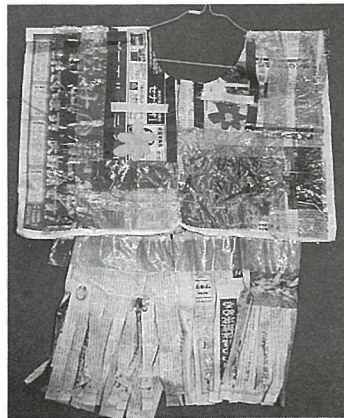


『ぼく』



5年1組  
林 理仁 君

※よつぷくのからだの部分や顔のほの部分の色を工夫しました。



『私のファッション』



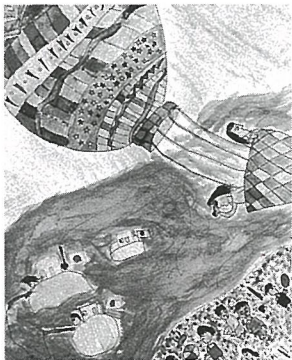
2年1組  
椎名美佳さん

※新聞紙にテープや折り紙を使って、素敵なものも作ることができました。



6年1組  
斉藤千紘さん

※気球に乗ってみるといろいろなものが見えます。世界中旅をしたい。



『気球に乗って』

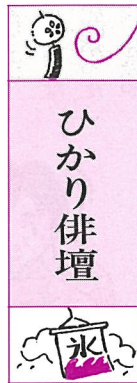


3年2組  
椎名 瞳さん

※花の紙をつけたりコップに色をぬつたりして、海や花のかんじをだしました。



『花ぶね』



ひかり俳壇

越川せつ子 (篠本)  
銭一つたらひの底に金魚売り

たらひを担ぎ爛し銀にも似た透き通る声で流す金魚売は夏の風物詩の一つであった。

鈴木 都根 (橋場)  
呆けまじや散りてなお燃ゆ夏の薔薇

八十路の作者は、散りてなお真紅の色艶を失わない花弁から新しい生命を得た。

鈴木とし子 (宝米)  
梅雨の路地呼び戻さる、豆腐売り

長梅雨に食欲も失せたとき豆腐屋のラッパ「冷奴に限る」天啓を得た如く決断した。

伊藤 幸枝 (尾垂)  
白靴やとかく噂にのぼる人

山崎 てい (二又)  
小判草活けて仏間の野趣深まる

椎名 静子 (二又)  
幼には幼の妬心金魚玉

川島 重一 (尾垂)  
雷鳴にふくむ葉が胃に走る

短評 椎名しげる

評者吟  
泰然と鉢を宇宙のクロアメキン